

海草類植生事前調査  
作業報告書

平成 27 年 10 月

有限会社 COCOMO

## 調査目的

西浦海岸線地先の水中環境及び水中生物に影響する（マダイ養殖等も含む）と想定される海草類（アマモなど）の植生調査を実施し、現状把握と植生回復計画の基礎資料とする

## 潜水調査実施日

- 第1回 平成27年8月21日 小足保周辺植生調査
- 第2回 平成27年8月22日 江梨、来海、大瀬崎周辺植生調査
- 第2回 平成27年9月23日~24日 来海周辺分布調査

## 潜水調査人員

- 杉山 善一 有限会社 COCOMO
- 崎本 昌稔 近畿実測株式会社
- 芝 修一 株式会社シャトー海洋調査

## 調査箇所





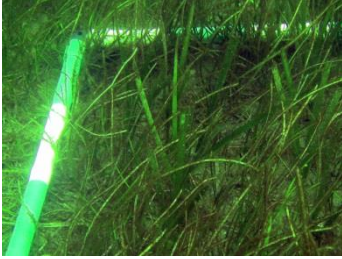
- アマモ・コアマモ・ウミヒルモ
- ヒメエダミドリイシ

## 調査結果

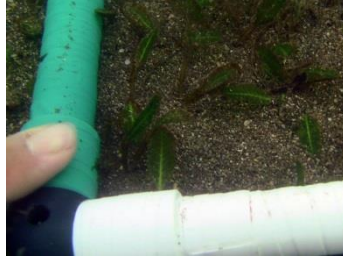
### 【第1回調査】

小足保地先でおおまかな潜水調査を実施し、アマモ・コアマモ・ウミヒルモの群密生を確認した  
柴漬（しばづけ）のため的人為的に沈めた木には多少マダイの稚魚が見られたがコアマモが分布している水底の方が多く見られた  
またコアマモやアマモに多数のアオリイカの卵嚢が産み付けられていた。  
主にアマモへの産み付が多い  
調査周辺の植生の割合はコアマモ 60%、ウミヒルモ 20%、アマモ 5%程度

コアマモ



ウミヒルモ



コアマモ



コアマモの卵囊



アマモの卵囊



アマモの卵囊



コアマモに集まるマダイの稚魚



人為的に沈めた木周辺





【第2回調査】

江梨、来海、大瀬崎周辺での大まかな潜水調査

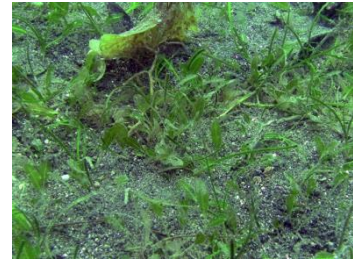
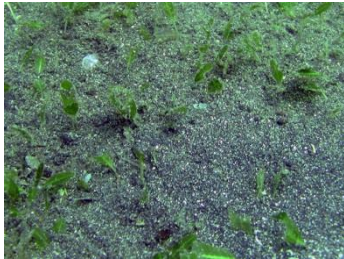
江梨周辺では群密性は低いもののウミヒルモの植生を確認

来海周辺ではコアマモ 20%、ウミヒルモ 60%、アマモ 5%程度の植生を確認

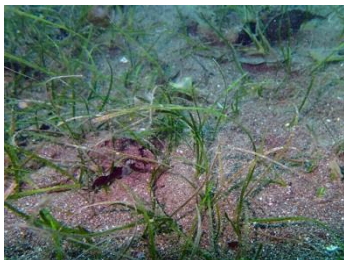
大瀬崎周辺ではアマモ、ウミヒルモの植生を確認したがごくまばらであった

来海周辺でヒメエダミドリイシの群生を確認

江梨周辺 ウミヒルモ



来海周辺 コアマモ



ウミヒルモ



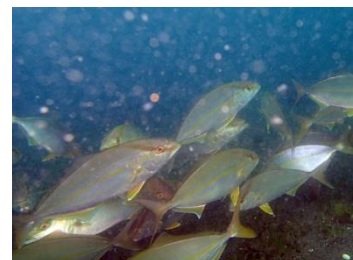
アマモ



来海 マダイの稚魚



カンパチの稚魚



来海 ヒメエダミドリイシの群生



【第3回調査】

来海地先にあるコアマモ、ウミヒルモ、ヒメエダミドリイシの分布状況調査を目的に実施した



## 【まとめ】

小足保地先で放流しているマダイ稚魚が、海草類が密生している箇所が多く謂集している状況を確認した。また、カンパチの回遊も確認された

一方、海草類がみられない砂泥底ではマダイ稚魚はほとんど確認されなかった。放流場所から離れている来海地先でも小足保地先と同様に藻場内ではマダイ稚魚が確認された

来海地先ではプレジャーボート等の錨泊によって藻場が被害を受けていたことから今後の対策が必要と思われる

アオリイカの卵嚢はコアマモよりもアマモに多く産んでいるためアマモの植生回復が産卵場所の拡大に有効と思われる。またマダイの稚魚の生育地としてもコアマモより背丈の高いアマモの方が育成場所として有効と思われる

ヒメエダイミドリイシは限られた場所で群生が確認されたが周辺海域との関係などの追跡調査が必要である。また死滅箇所も多くあるため、陸上からの影響の少ない場所へ移植等の手段も必要かと思われる

今後、植生回復を行うに当たり更に詳しく追加の分布調査が必要である

大瀬崎周辺の貴重な動植物リーフレットを作成したので添付します

## 【補足】 静岡県の藻場状況（外部資料）

現存藻場 （自然環境保全基礎調査 平成 13 年度版）

静岡県の伊豆半島周辺には、テングサ場が卓越しており、部分的にアラメ場が分布する

アマモ場は大瀬崎に小規模なものが存在するにとどまる

駿河湾から遠州灘にかけてはアラメ場が中心となるが、なかでも相良・御前崎沿岸は広大な面積を占める。アマモ場はみられない

遠州灘の浜名港ならびに浜名湖にはアマモ場が分布する

浜名湖の内部ではコアマモが中心であり、アマモは浜名港を中心に分布する

下田市外浦海岸にアマモ生育との情報（2009 年）

10 年前からいきなり生息域を拡大して繁茂したアマモに対する海水浴場の対応記事が存在する